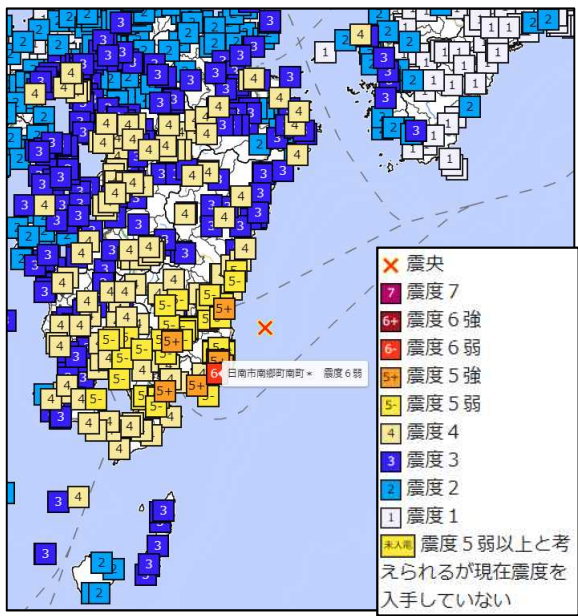
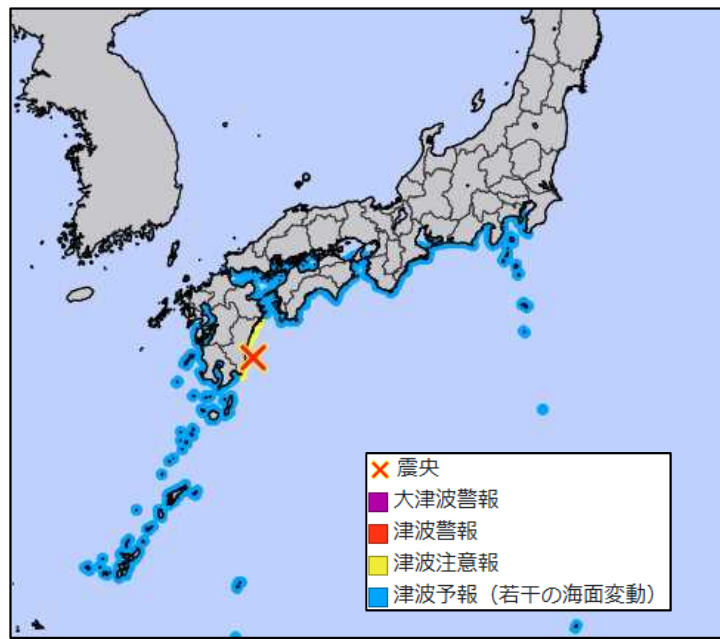


- 2024年8月8日16時42分頃にマグニチュード7.1、深さ31kmの地震が発生し、宮崎県日南市（にちなんし）で震度6弱を観測したほか、近畿地方から奄美群島にかけて震度5強～1を観測。
- この地震により四国から九州にかけて津波注意報を発表。（19時00分に一部を除き解除）
- 今回の地震発生後、8月8日19時00分現在、震度1以上の地震を4回（震度2：2回、震度1：2回）観測。
- 8日17時30分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を開催し、「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる。」と評価。
- 19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表。今後、もし大規模地震が発生すると、強い揺れや高い津波を生じる可能性。
- 政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとるよう呼びかけ。

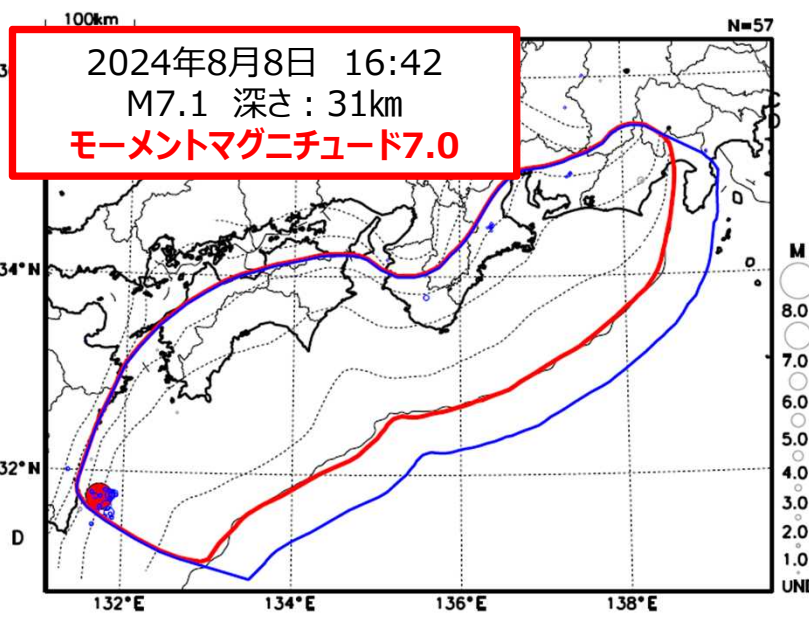
■ 震度分布図



■ 津波注意報等発表状況（令和6年8月8日19時00分）



■ 今回の地震の震央と最大クラスの想定震源域



- ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域
- ・黒点線は、フィリピン海プレート上面の深さ

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）について

本日（8日）19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。その内容について別添のとおりお知らせいたします。

問合せ先：地震火山部 地震火山技術・調査課 大規模地震調査室
電話：03-3434-9040

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表

南海トラフ地震の想定震源域では、**新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっています**と考えられます

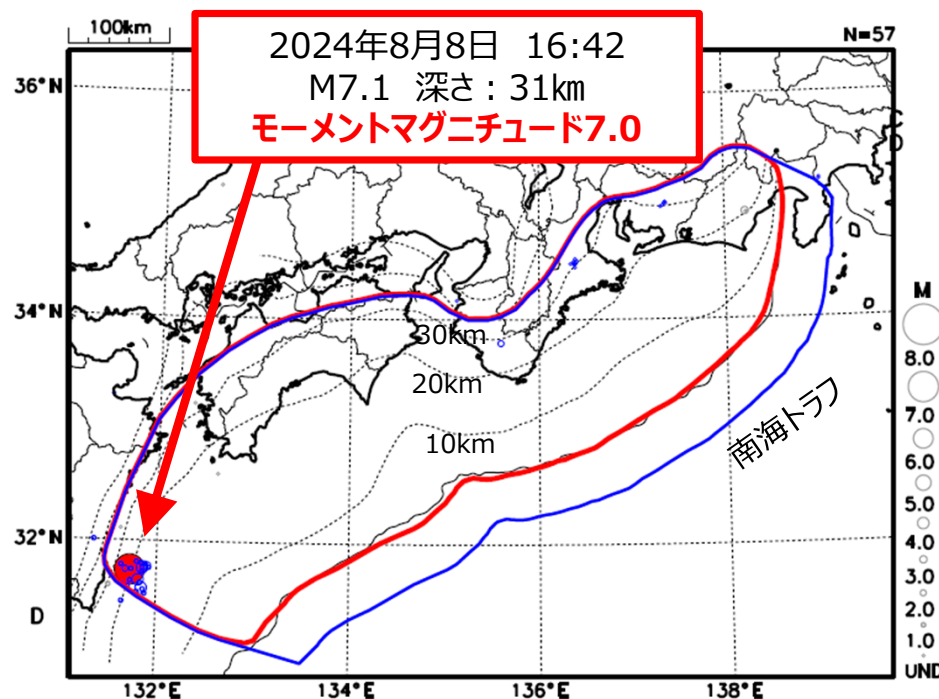
今後、もし大規模地震が発生すると、**強い揺れや高い津波を生じると考えられます**

※新たな大規模地震が発生する可能性は平常時と比べると高まっていますが、特定の期間中に大規模地震が**必ず発生することをお知らせするものではありません**

政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。

今回の地震の発生場所



- ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域
- ・黒点線は、フィリピン海プレート上面の深さ

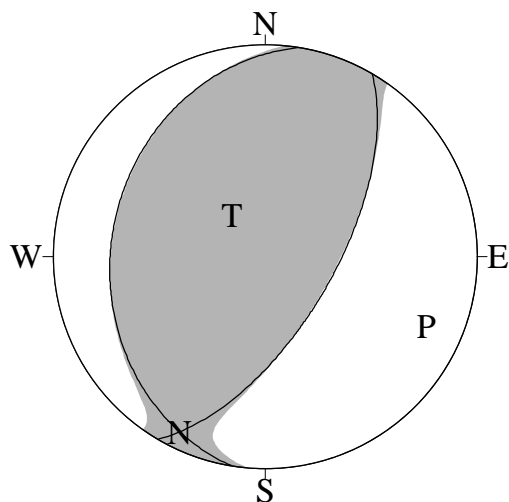
発震機構解

08081642

西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=7.0



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

北緯 31度35分

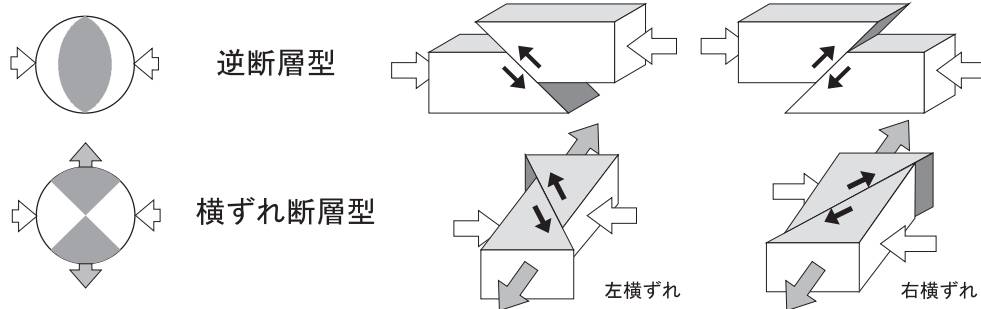
東経 131度43分

深さ 約35km

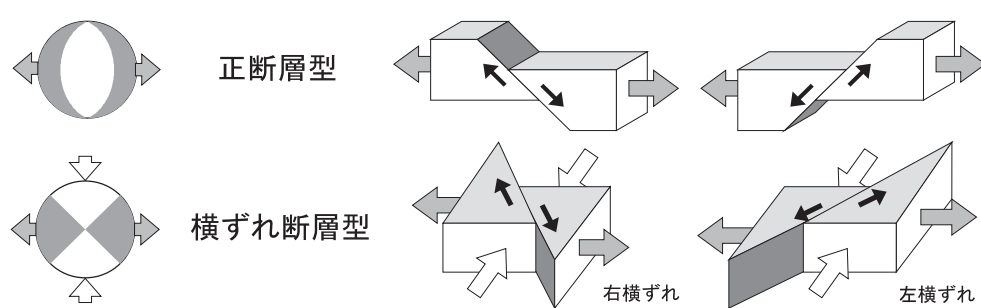
セントロイドの位置とは、地震の断層運動を1点で代表させた場合の位置。

発震機構解 [CMT解] について

圧力軸に注目した場合の例



張力軸に注目した場合の例

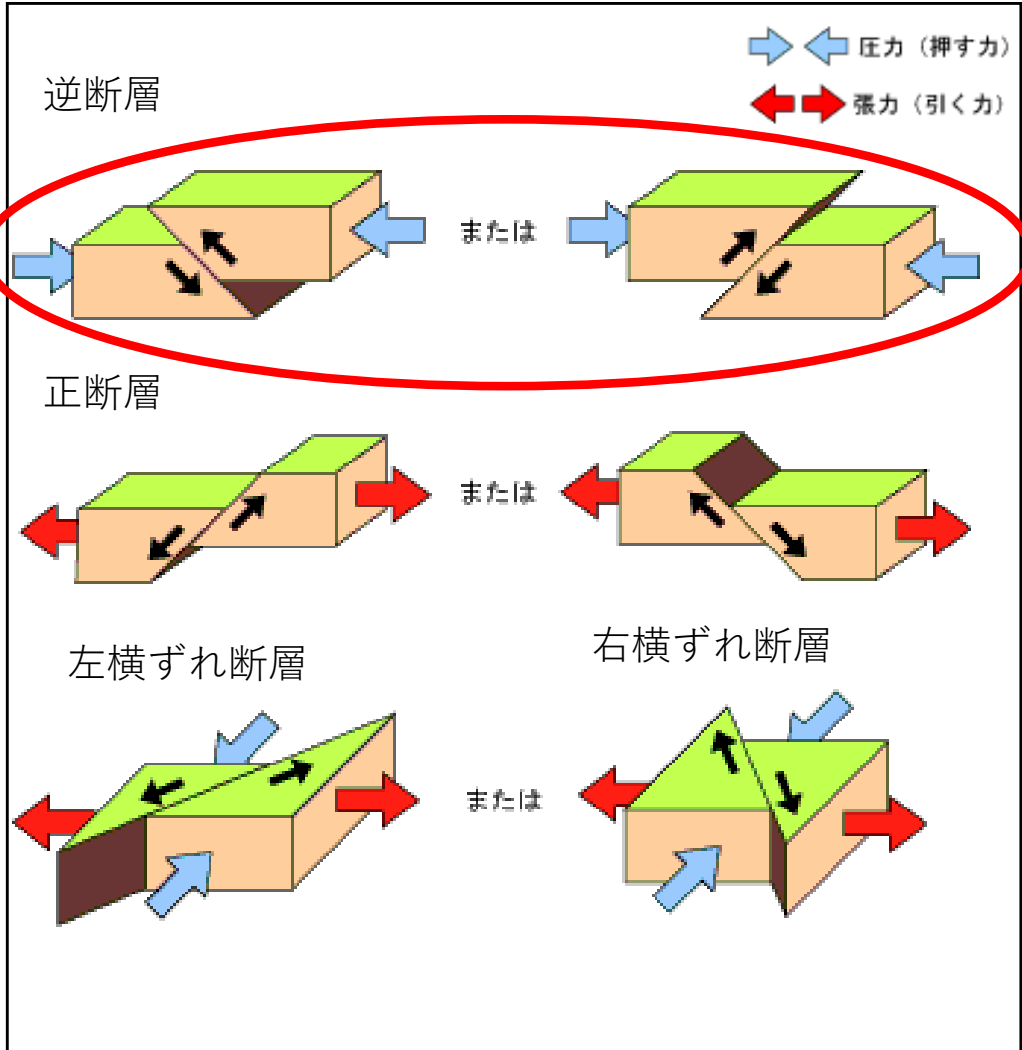
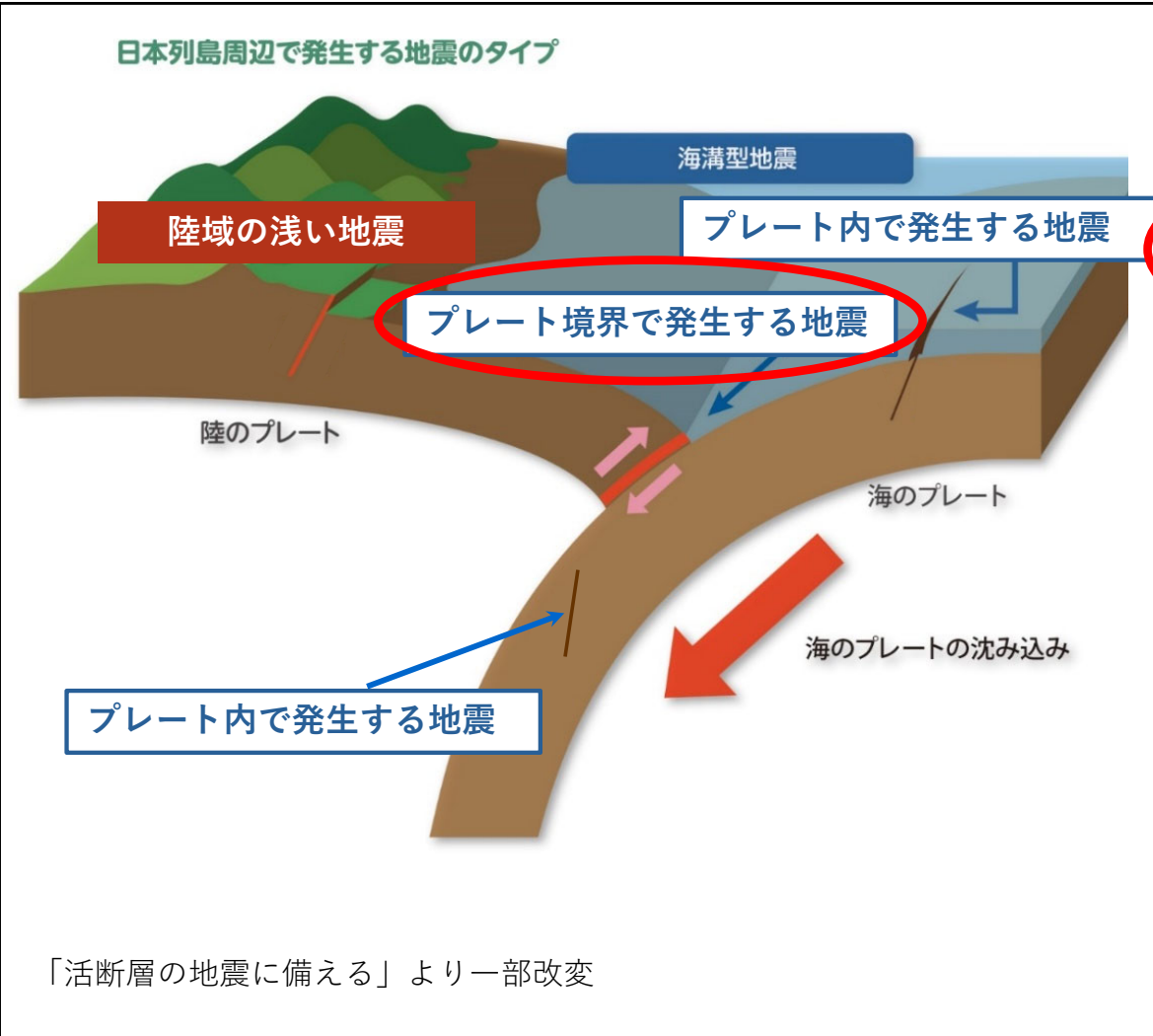


⇨ ⇩ 圧力 (押し力) ⇩ ⇨ 張力 (引く力) ⇨ ⇩ 断層がずれる方向

気象庁作成

地震の発生メカニズム

今回の地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した、逆断層型の地震



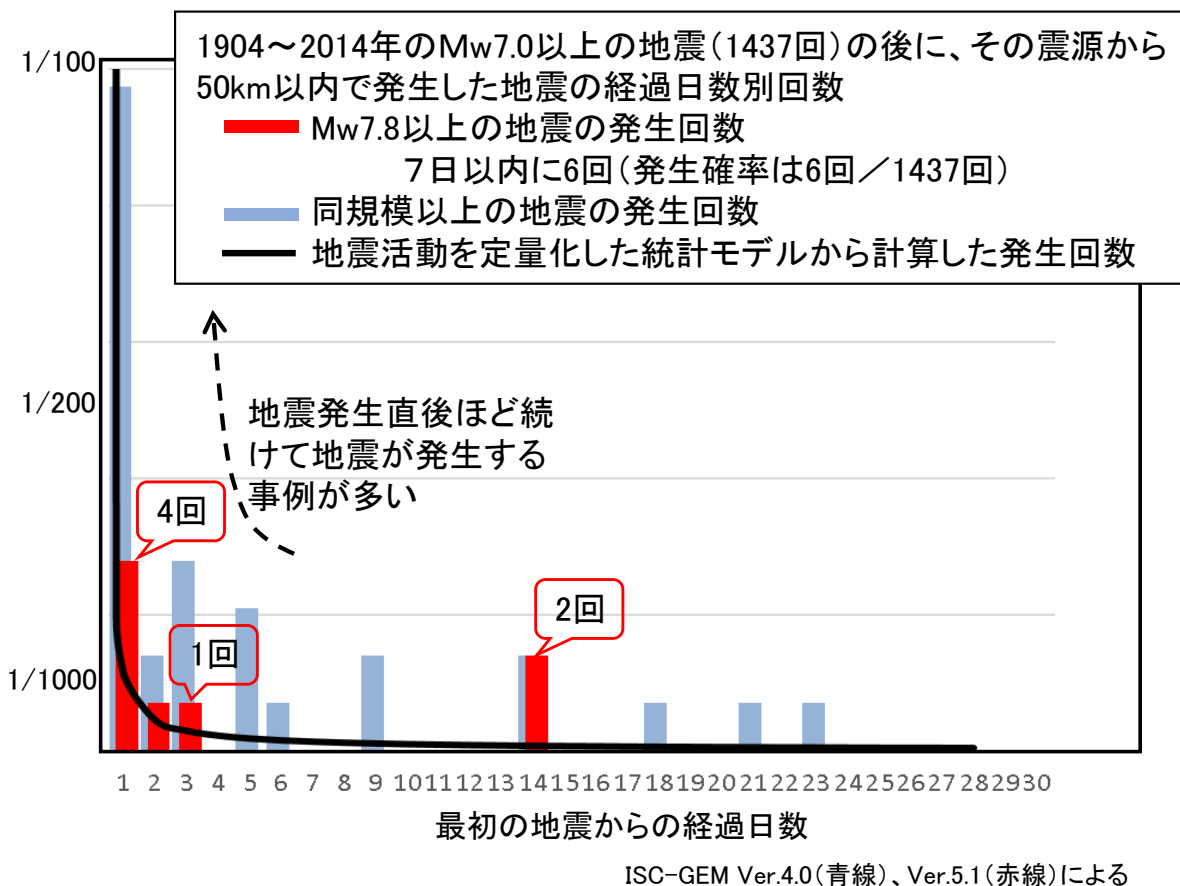
地震が続けて発生した事例

(Mw7.0以上の地震発生後にMw8クラス以上の地震が発生した世界の事例)

Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw8クラス以上(Mw7.8以上)の大規模地震が発生するのは、数百回に1回程度です。異常な現象が観測される前の状況^(注)に比べて数倍高くなっています。

(注)30年以内に70~80%の発生可能性があると考えられる状況です。南海トラフ沿いの地域において「30年以内に70~80%」の可能性でM8~9クラスの地震が発生するという確率は、7日以内に換算すると概ね千回に1回程度となります。これと、世界における続けて発生した地震の頻度を比較しています。

- 地震が続けて発生したこれらの事例から、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。
- 続けて地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。



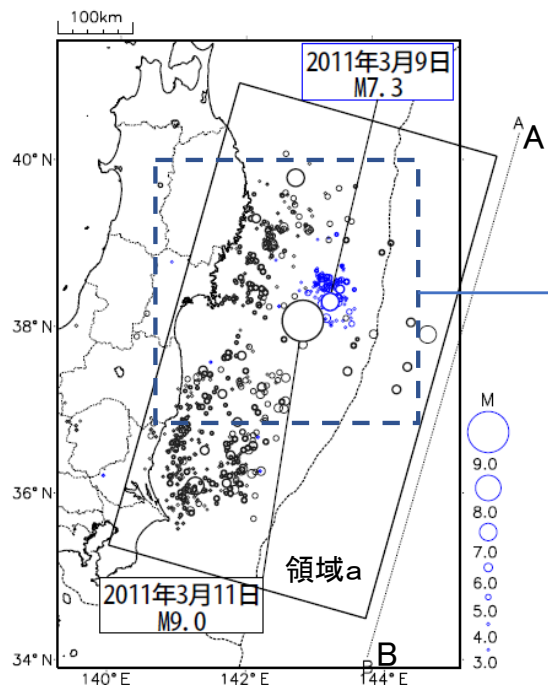
地震が続けて発生した事例

(M7.0以上の地震に引き続いて、M8クラス以上の規模の地震が発生した事例)

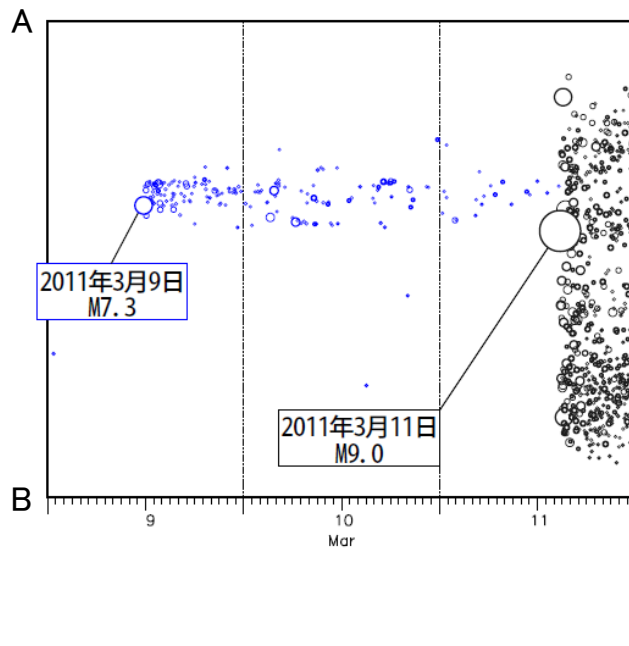
「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の例

震央分布図

(2011年3月9日～3月11日、深さ全て、 $M \geq 3.0$)
3月11日14時46分以降の地震を黒で表示

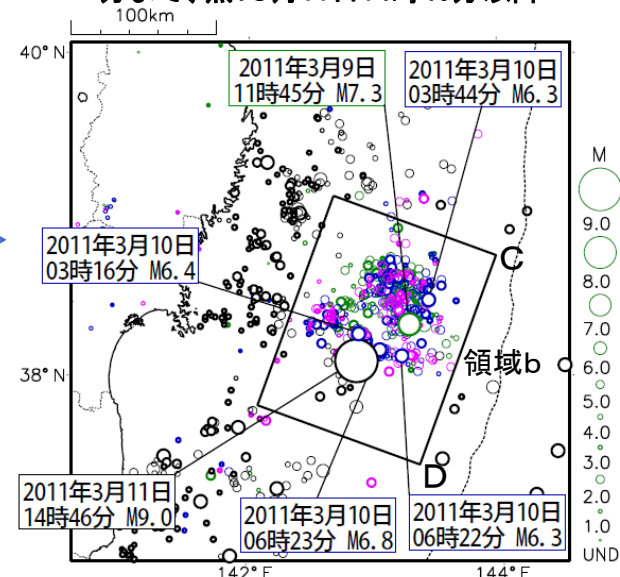


左図領域a内の時空間分布図(A-B投影)

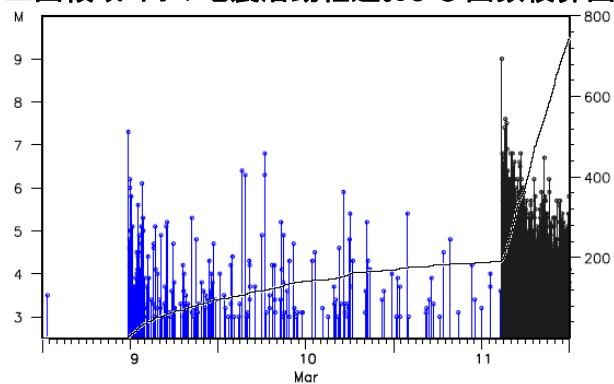


震央分布図

(2011年3月9日～3月11日、深さ全て、M全て)
緑: 3月9日、青: 3月10日、桃: 3月11日14時45分まで、黒: 3月11日14時46分以降

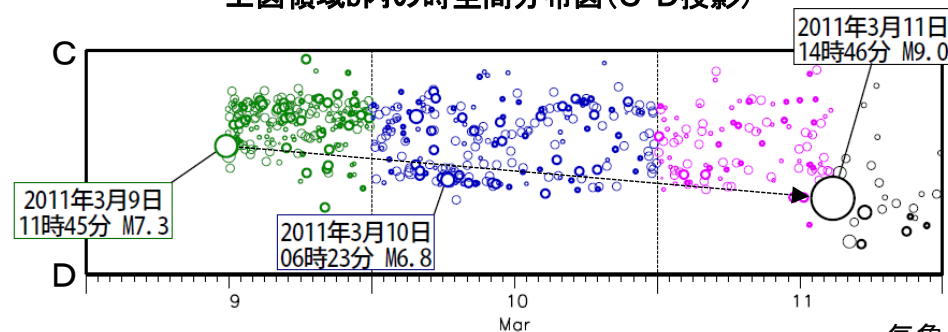


上図領域a内の地震活動経過および回数積算図



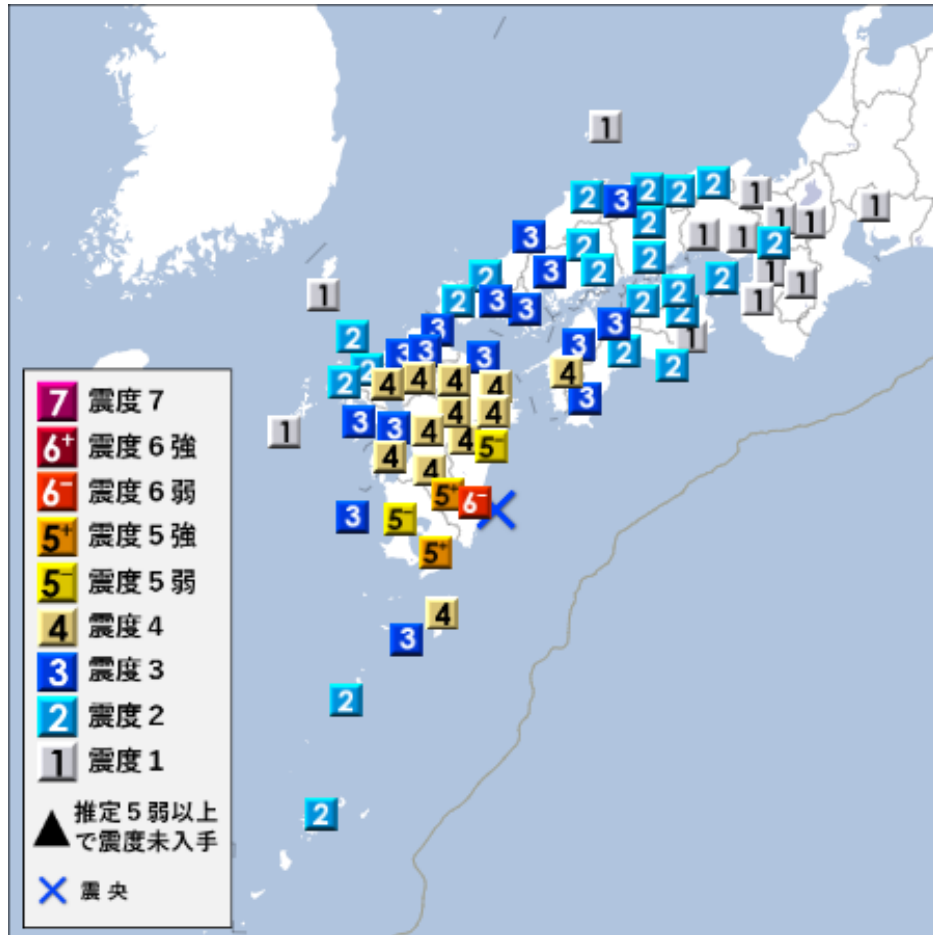
最初の地震から、その後発生したさらに規模の大きな地震の場所へ地震活動が移動しました

上図領域b内の時空間分布図(C-D投影)



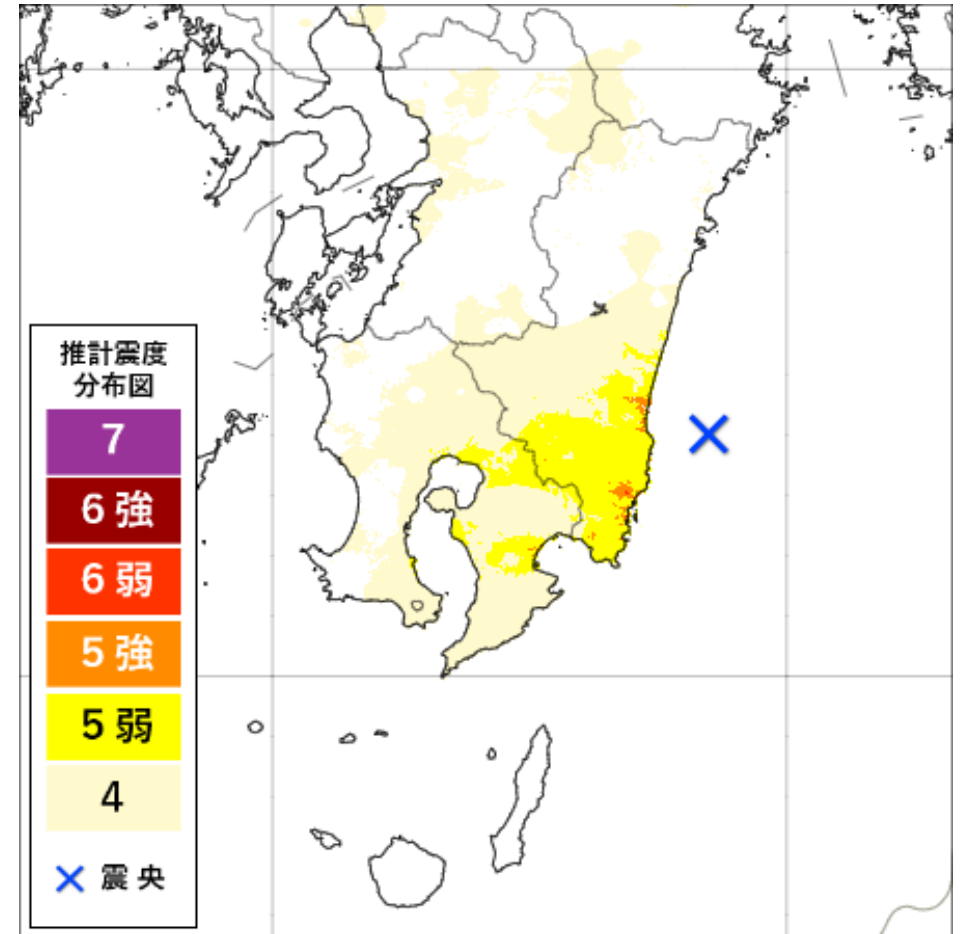
震度分布図・推計震度分布図

【各地域の震度】



8月8日16時55分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

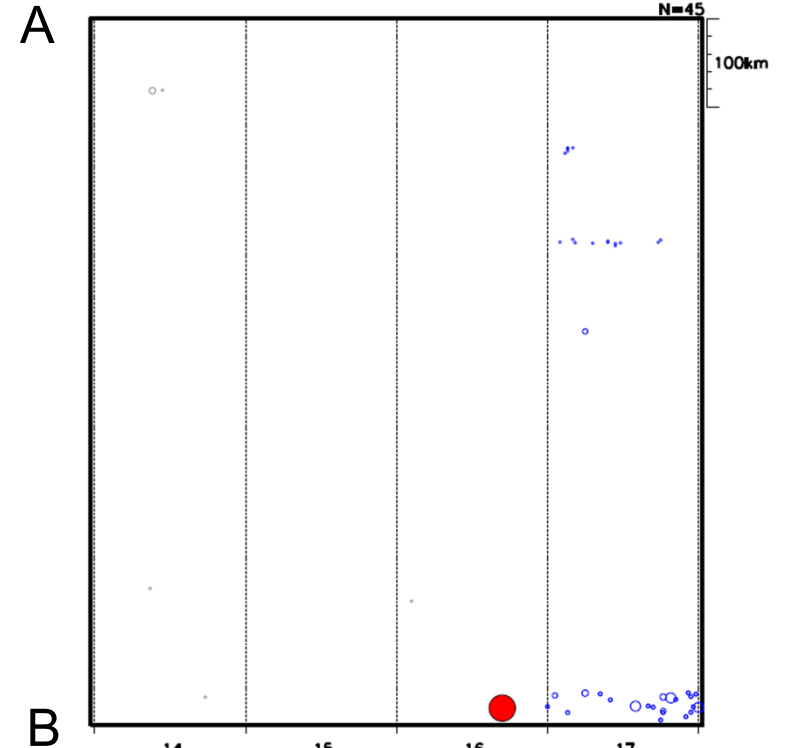
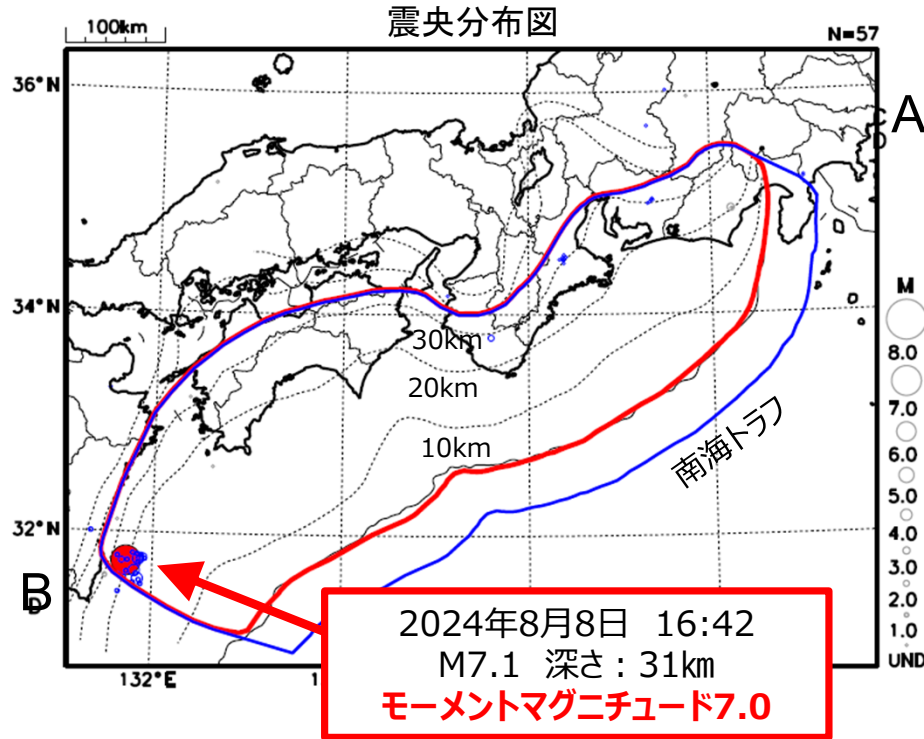
推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

今回の地震活動

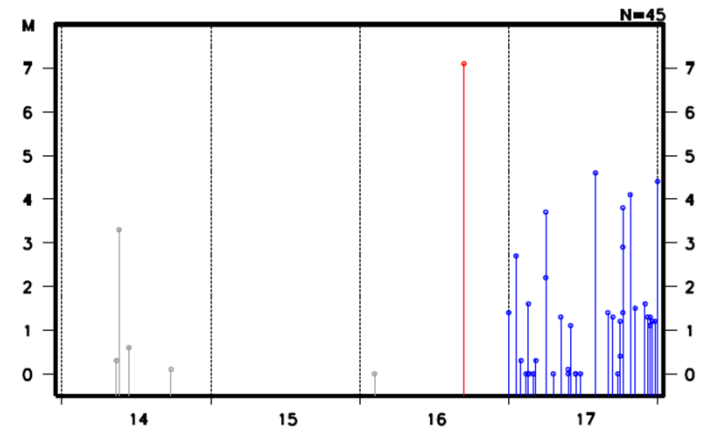
(震源の色について) 赤色: 今回の地震、青色: 今回の地震より後に発生した地震、灰色: 今回の地震より前に発生した地震

2024年08月08日14時00分～ 2024年08月08日18時00分、
深さ0～150km、M全て

監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



監視領域(青線)内の地震活動経過図



[図の説明]

- ・表示している震源は速報値を含みます
- ・丸の大きさはマグニチュードの大きさを表します
- (震央分布図)
 - ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域を示します
 - ・黒点線は、Hirose et al (2008)、Baba et al. (2002) によるフィリピン海プレート上面の深さを示します
- (時空間分布図)
 - ・横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示します
 - ・発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示します
- (地震活動経過図)
 - ・横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表します

<資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、速報値を含みます
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください

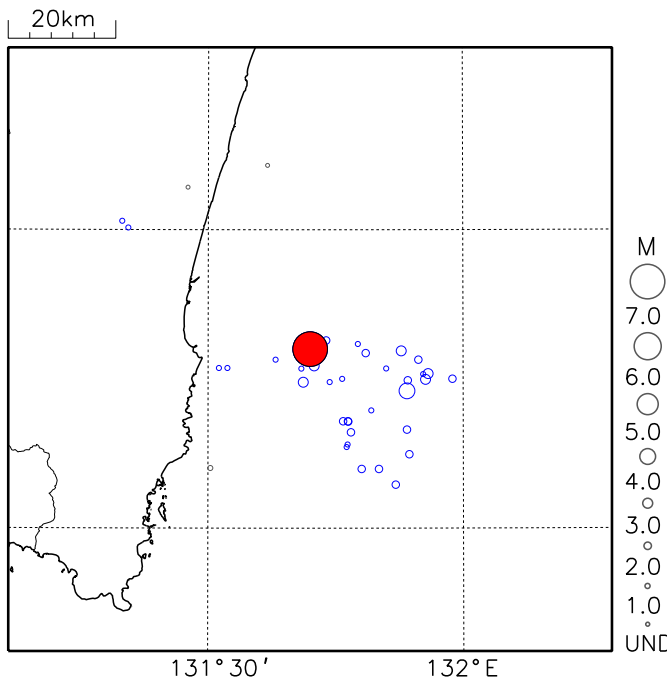
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

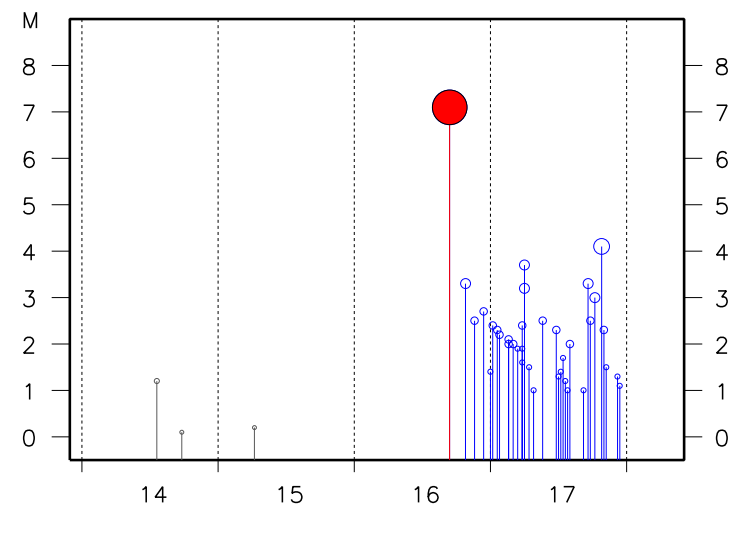
深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

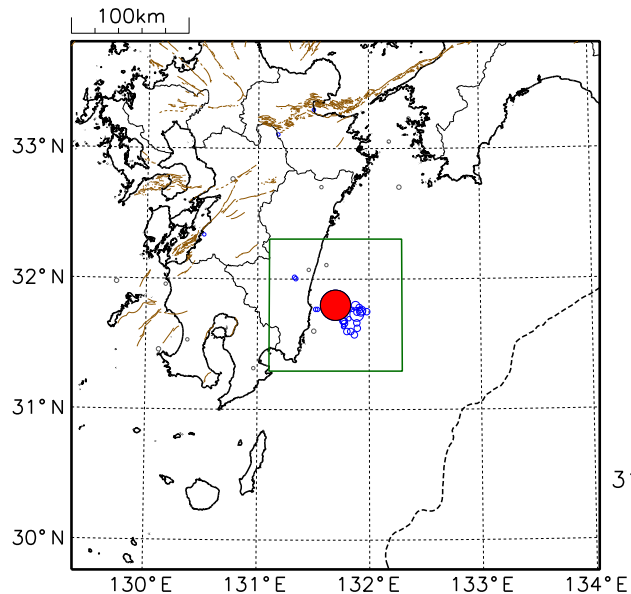
2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



震央分布図（広域図）

深さ0 -- 100km、 M 全て

2024 08 08 14:00 -- 2024 08 08 18:20



(震源の色について)赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震 灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

<資料の利用上の留意点>

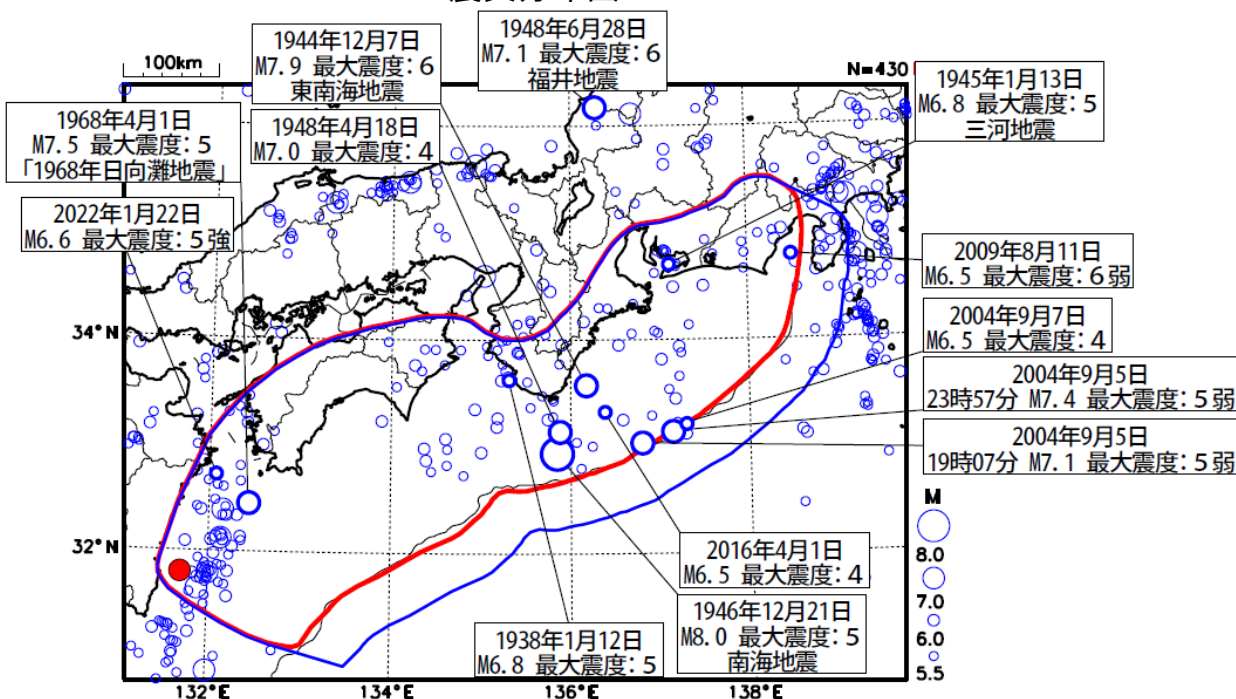
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

南海トラフ沿いの過去の地震活動（1919年以降）

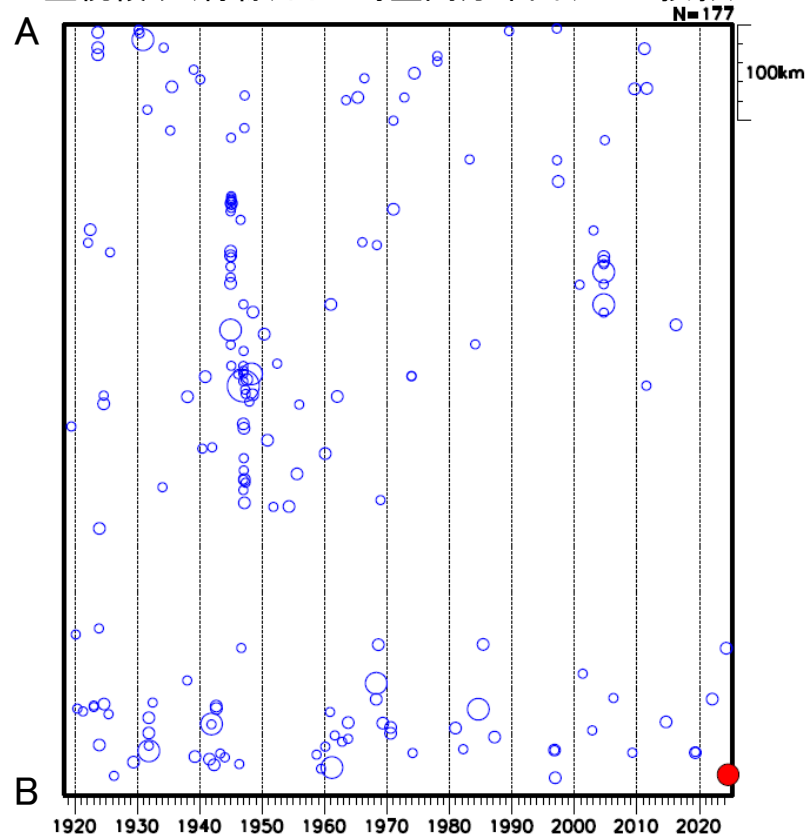
1919年01月01日～2024年08月08日16時44分、
深さ0～100km、M5.5以上

震央分布図

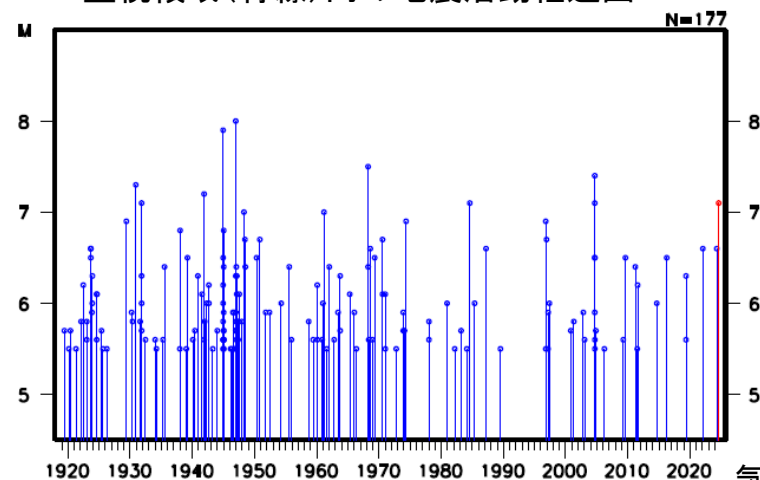
今回の地震を赤色で示す



監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



監視領域(青線)内の地震活動経過図



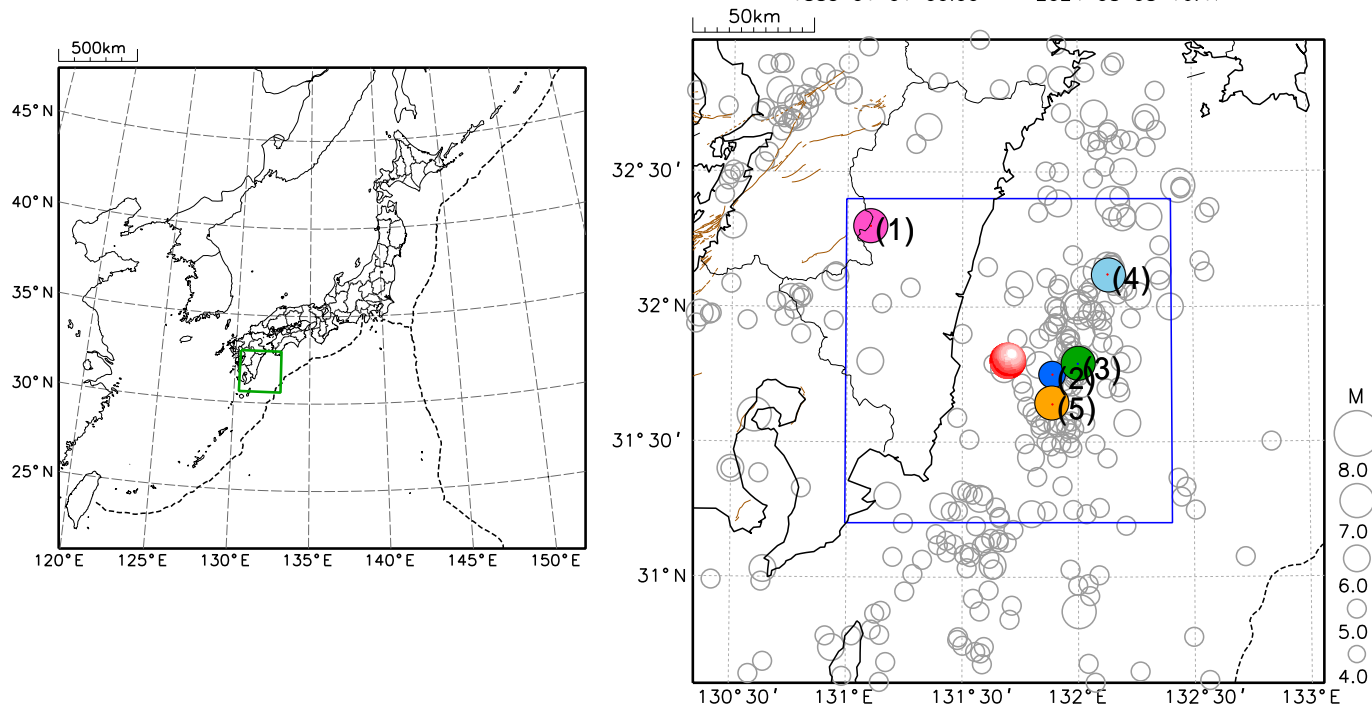
[図の説明]

- 表示している震源は速報値を含む
 - 丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す
- (震央分布図)
- 以下の地震に吹き出しを付けた
 - 1999年以前
 - 想定震源域(日向灘を除く)で発生したM6.8以上の地震
 - 想定震源域(日向灘)で発生したM7.5以上の地震
 - 図中で1946年南海地震から3年以内に発生したM7.0以上の地震
 - 2000年以前
 - 想定震源域で発生したM6.5以上の地震
- (時空間分布図)
- 横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示す
 - 発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示す
- (地震活動経過図)
- 横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す

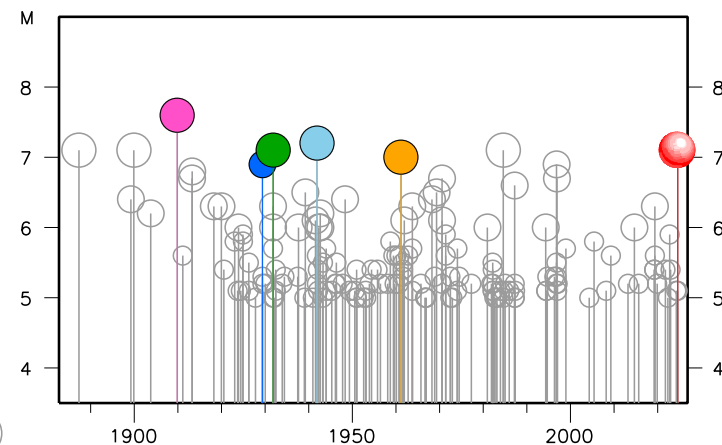
今回の地震周辺の過去の主な地震活動

震央分布図

M 5.0 , 深さ : 0 ~ 150km
今回の地震を赤く表示
1885 01 01 00:00 -- 2024 08 08 16:47



震央分布図の青色矩形内のM-T図



過去の主な地震

主な地震のシンボルの色と番号の対応
桃：(1)，青：(2)，緑：(3)，水：(4)，黄：(5)

(1) 1909年11月10日 M:7.6 宮崎県北部山沿い

(2) 1929年5月22日 M:6.9 日向灘

(3) 1931年11月2日 M:7.1 日向灘

(4) 1941年11月19日 M:7.2 日向灘

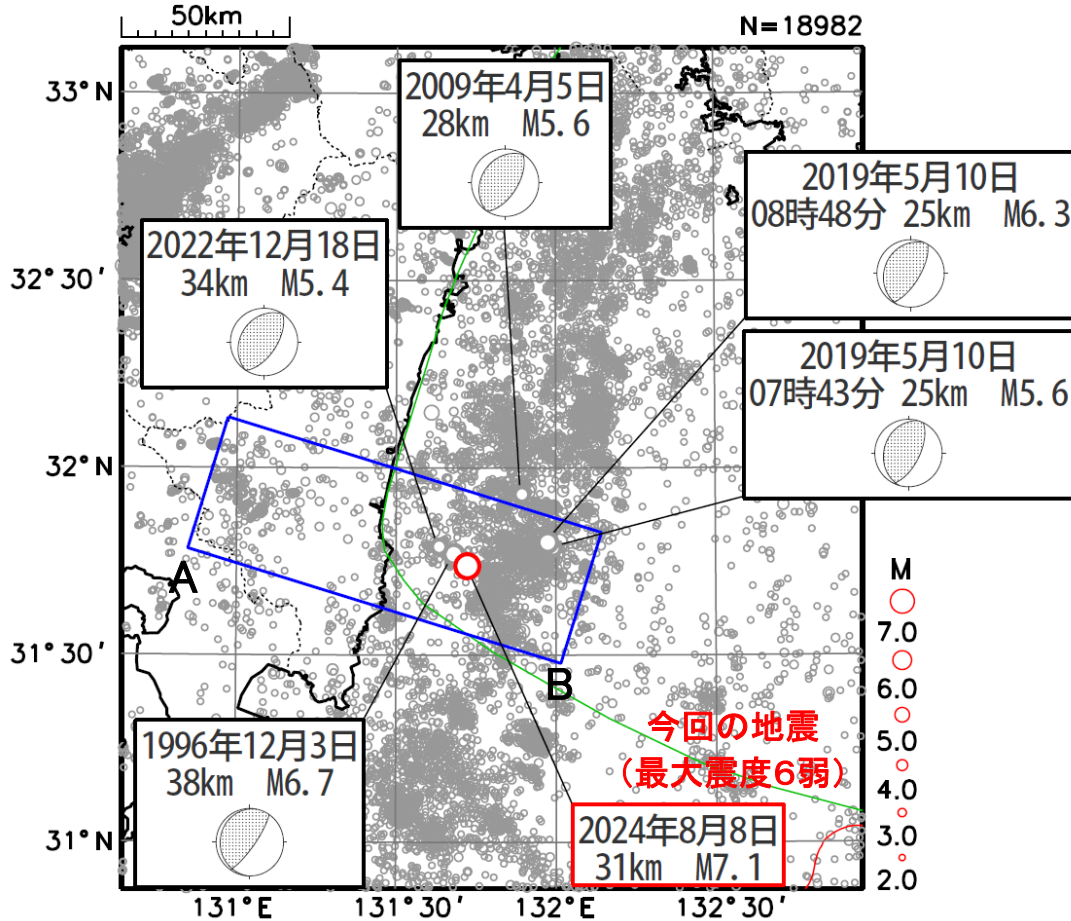
(5) 1961年2月27日 M:7.0 日向灘

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の太破線は、海溝軸を示す。
- ・1885年から1918年の地震の震源要素は、宇津（1982,1985）及び茅野・宇津（2001）による。
- <地震の名称について>
- ・気象庁が定めた地震の名称を「」で示す。
- ・上記以外で、被害を伴い、広く社会的に地震の名称として知られているものについて、名称（「」を付加しない）を併記している。名称は、「日本の地震活動（第2版）」（地震調査研究推進本部）による。
- ・地震の名称の後ろの[]は、この規模の順に近接して発生した主な地震が他にあることを示す。名称は、最大規模の地震にのみ付加しており、[]内に記載した他の地震が異なる番号で記載される場合がある。
- <資料の利用上の注意点>
- ・今回の地震は、速報値を表示しており、精査後に修正する場合がある。
- ・過去の地震活動は、M5.0以上の地震、今回の地震は、M4.0以上の地震を表示している。
- ・過去の地震活動は、地域、時期に依らず、全てM5.0以上の地震を表示している。地域や時期により検知能力（ ）が異なる場合がある。検知能力：特定の地域、時期において、あるM（規模）以上の地震は、概ね全て検知できていると考えられるとする。この場合、そのMが小さいほど検知能力が高いと言う。一般的に、同時期であれば、海域より陸域の方が検知能力は高く、同一地域であれば、時期が新しいほど検知能力は高い。

令和6年8月8日 日向灘の地震 (発生場所の詳細)

震央分布図

(1994年10月1日～2024年8月8日16時44分、
深さ0～100km、M2.0以上)

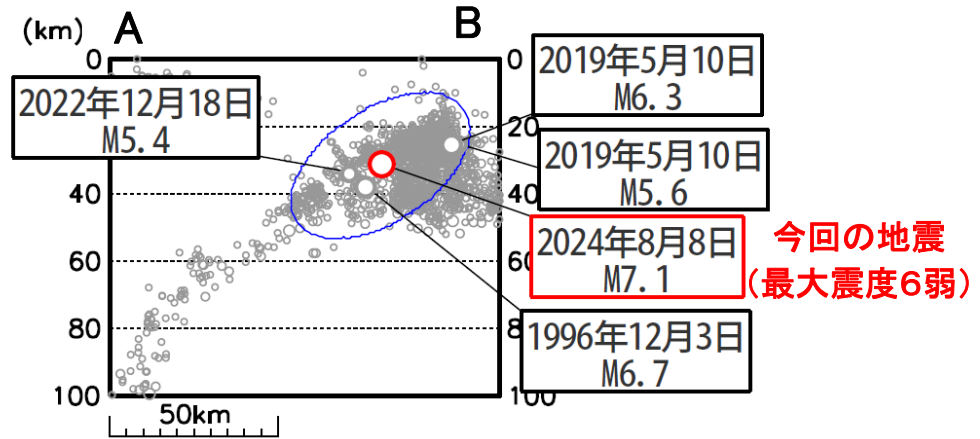


丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

2024年8月8日以降の地震を赤く表示

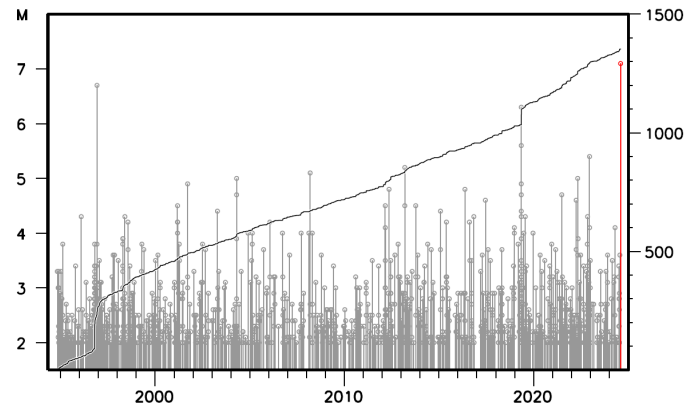
緑色実線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を表す

左図の四角形領域内のA-B断面図



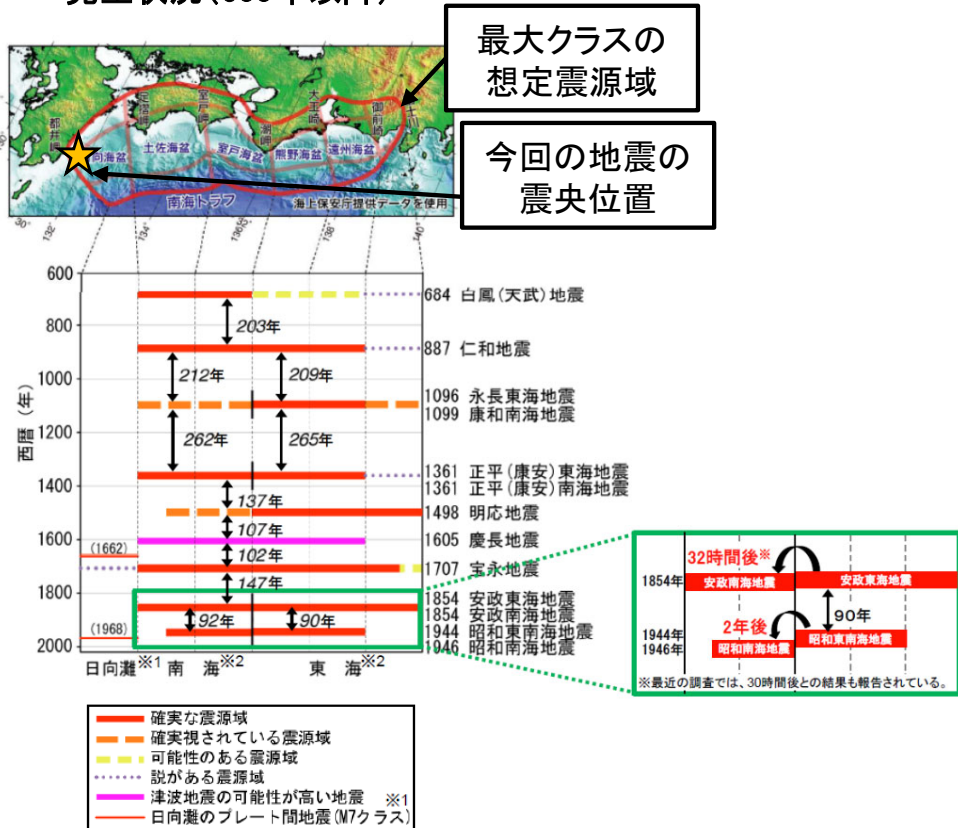
縦軸は深さを表し、丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

上図の楕円領域内の地震活動経過 および回数積算図



横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

●想定される最大規模クラスの地震の震源域・過去の発生状況(600年以降)



●海溝型地震の長期評価

領域または地震名	想定される規模	ランク※3
南海トラフ	M8~9クラス	Ⅲ * ランク

●周辺で想定されている海溝型地震

○今回の地震の震源周辺では、南海トラフで発生する大規模地震が想定されています。

●海域で発生した規模の大きな地震後に見られた地震活動の例

○過去には、2008年の茨城県沖の地震のように、大きな地震の発生後、より大きな地震が発生し、当初の活動域が広がった例もあります。しかし、2004年の釧路沖の地震のように、より大きな地震は発生せず、地震活動域が広がらなかった例もあります。

●南海トラフで発生する大規模地震

○南海トラフでは過去繰り返し大規模な地震が発生しています。正平(康安)地震(1361年)以降、南海トラフで起きた6回の大規模地震の平均発生間隔は117年です。しかし、実際に発生した地震の発生間隔は約90年から約150年とばらついています。過去には最短で約90年の間隔で大規模地震が発生した例があります。

○昭和の東南海・南海地震(1944年・1946年)の発生から約80年が経過しており、次の大規模地震発生の切迫性が高まっていると言えます。

●過去に南海トラフで発生した巨大地震の地震の規模

地震名称	地震本部による	内閣府による
宝永地震		8.9
安政東海地震		8.6
安政南海地震		8.7
昭和東南海地震	8.1 ~ 8.2	8.2
昭和南海地震	8.2 ~ 8.5	8.4

注)地震の規模はモーメントマグニチュード(Mw)

気象庁作成

※1「日向灘のプレート間地震(M7クラス)」として、現在知られているこの海域での最大規模の地震(『地震活動総説』(宇津, 1999)では、1662年の地震がM7.6、1968年の地震がM7.5)を記載していません。

※2 東海~南海には、現在知られている大規模地震(『地震活動総説』(宇津, 1999)では、正平(康安)東海地震以降の地震はいずれもM7.9以上)を記載しています。

※3 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%~26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表します。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部)

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/nankai_2.pdf

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部)

<https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について・別添資料」(内閣府)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/tyosabukai_wg/pdf/h290825betten.pdf

「防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する評価基準検討部会とりまとめ・別冊」(内閣府)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301225bessatsu_02.pdf

周辺で想定されている海溝型地震 南海トラフの巨大地震で想定される最大クラスの津波高・震度分布

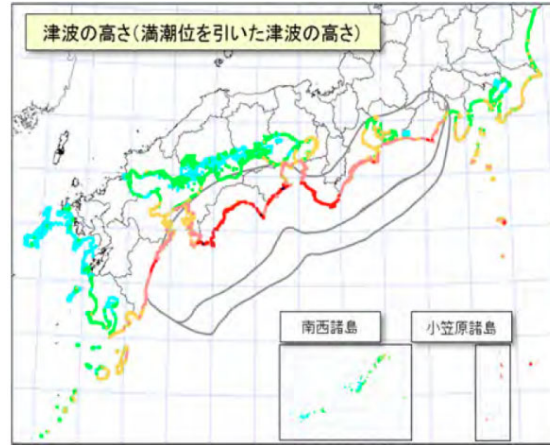
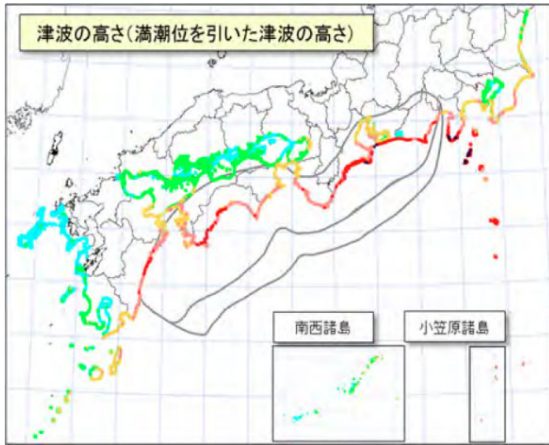
●想定される津波高（被害想定が実施された4ケースを例示）

●想定される震度分布

東海地方が大きく被災するケース

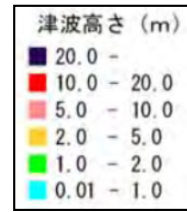
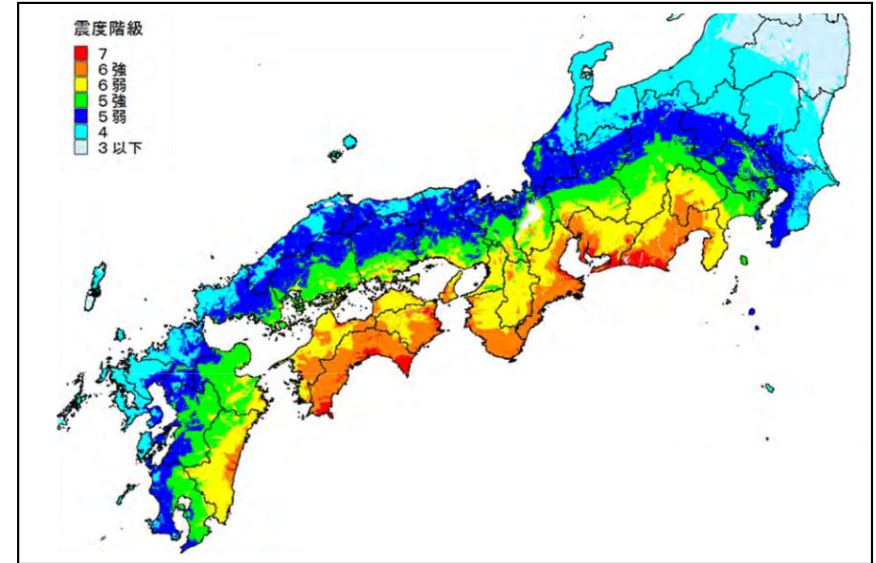
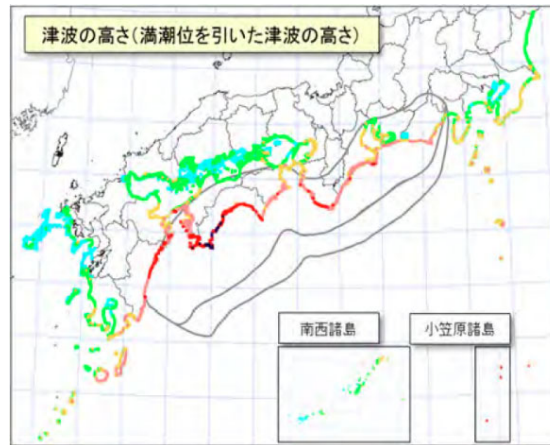
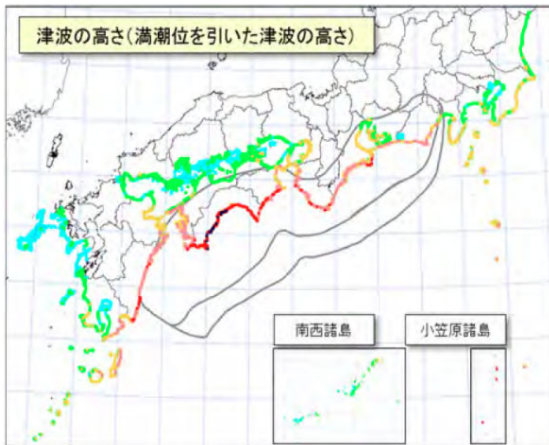
近畿地方が大きく被災するケース

複数の想定されるケースの最大値の分布



四国地方が大きく被災するケース

九州地方が大きく被災するケース



ここで示した想定される津波高と震度分布は、様々なケースが想定されるうちの一例を示したものです。これより高い津波、大きな震度となる場合もあります。

※本資料は以下を基に作成しました。

「南海トラフの巨大地震による津波高・震度分布等」(内閣府) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku/pdf/1_1.pdf

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

** 見出し **

本日（8日）16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震と南海トラフ地震との関連性について検討した結果、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

** 本文 **

本日（8日）16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。また、ひずみ観測点では、この地震に伴うステップ状の変化が観測されています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、西北西・東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で、南海トラフ地震の想定震源域内における陸のプレートとフィリピン海プレートの境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード7.0の地震と評価されました。

過去の世界の大規模地震の統計データでは、1904年から2014年に発生したモーメントマグニチュード7.0以上の地震1,437事例のうち、その後同じ領域でモーメントマグニチュード8クラス以上の地震が発生した事例は、最初の地震の発生から7日以内に6事例であり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。このデータには、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（モーメントマグニチュード9.0）が発生した2日前に、モーメントマグニチュード7クラスの地震が発生していた事例が含まれます。世界の事例ではモーメントマグニチュード7.0以上の地震発生後に同じ領域で、モーメントマグニチュード8クラス以上の地震が7日以内に発生する頻度は数百回に1回程度となります。

これらのことから、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

南海トラフ地震には多様性があり、大規模地震が発生した場合の震源域は、今回の地震の周辺だけにとどまる場合もあれば、南海トラフ全域に及ぶ場合も考えられます。

最大規模の地震が発生した場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されています。

今後の政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュードとは異なる値になる場合があります。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

** 次回発表予定 **

今後は、「南海トラフ地震関連解説情報」で地殻活動の状況等を発表します。

** （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 **

【南海トラフ地震臨時情報】

情報発表条件：

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

情報名に付記するキーワード：

○「調査中」 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合

- ・監視領域内※1でマグニチュード6.8以上の地震※2が発生
- ・1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測

・その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測

○「巨大地震警戒」 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合

○「巨大地震注意」

- ・監視領域内※1において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※2が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）

・想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合

○「調査終了」（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲

※2 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

【南海トラフ地震関連解説情報】

情報発表条件：

○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合

○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります。

宮崎県日向灘を震源とする地震による被害及び 消防機関等の対応状況（第4報）

（これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。）

令和6年8月8日（木）19時30分
消防庁災害対策本部
※下線部は前回からの主な変更点

1 地震の概要（気象庁情報）

- (1) 発生日時 令和6年8月8日16時43分頃
- (2) 最大震度
震度6弱 宮崎県：日南市
- (3) 津波の状況
《津波注意報》
 - ・ 令和6年8月8日 16時44分発表 高知県、宮崎県
 - 16時52分発表 大分県、鹿児島県
 - 19時00分解除 高知県、大分県、鹿児島県

2 被害の状況

- (1) 119番通報の状況（消防本部から聴取）
 - 【宮崎県】 宮崎市消防局：通常どおり
日南市消防本部：通常どおり
西諸広域行政事務組合消防本部：通常どおり
串間市消防本部：通常どおり
宮崎県東児湯消防組合消防本部：通常どおり
 - 【鹿児島県】 鹿児島市消防局：通常どおり
垂水市消防本部：通常どおり
霧島市消防局：通常どおり
大隅曾於地区消防組合消防本部：通常どおり
- (2) 人的被害・住家被害
 - 【宮崎県】 軽傷1人（都城市）
- (3) その他の被害（消防本部情報等）
 - 【宮崎県】 宮崎市において、避難中に転倒し1人負傷（軽傷）
宮崎市において、倒れてきた物に当たり1人負傷（程度不明）
日南市において、倒れてきた物に当たり1人負傷（程度不明）
日南市において、転倒し1人負傷（軽傷）
 - 【鹿児島県】 鹿屋市において、物が落下し1人負傷（軽傷）
霧島市において、倒れてきた物に当たり1人負傷（軽傷）
霧島市において、転倒し1人負傷（軽傷）
肝付町において、転倒し1人負傷（軽傷）
- (4) 火災の発生状況（住家等）
確認中
- (5) 重要施設の被害
現在時点で被害報告なし

3 避難指示の状況

都道府県	警戒レベル5					警戒レベル4				
	緊急安全確保					避難指示				
	市	町	村	世帯	人数	市	町	村	世帯	人数
愛媛県						1	1			
高知県						6	2	1	7,025	12,019
宮崎県							1			
鹿児島県						1	1		1,964	3,430
合計						8	5	1	8,989	15,449

4 都道府県における災害対策本部の設置状況

【三重県】 8月8日 17時00分 災害対策本部 設置

【宮崎県】 8月8日 16時43分 災害対策本部 設置

5 地元消防機関の活動等

【宮崎県】 8月8日 17時26分 宮崎県防災ヘリにより情報収集活動を実施

【鹿児島県】 8月8日 17時52分 鹿児島県防災ヘリにより情報収集活動を実施

6 緊急消防援助隊等の活動等

8月8日 16時43分 消防庁から以下の都道府県に対して出動準備を依頼

【統括指揮支援隊】

福岡県（福岡市消防局）

【統合機動部隊】

福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県

合計 4県

【航空小隊】

広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県

大分県、鹿児島県

合計 8県

7 消防庁の対応

8月8日 16時43分 消防庁長官を長とする消防庁災害対策本部を設置（第3次応急体制）

16時44分 震度6弱を観測した宮崎県に対し適切な対応及び被害報告について要請

問い合わせ先

消防庁災害対策本部 広報班

TEL 03-5253-7513

宮崎県（震度6弱）を震源とする地震における被害と対応

1 地震の概要

(1) 発生日時 令和6年8月6日 16:43

(2) 震源地(震源の深さ)及び地震の規模

・震源地：日向灘（北緯31.8度、東経131.7度）

・震源の深さ：約30km

・地震の規模(マグニチュード)：7.1

(3) 各地の震度(震度6弱以上)

震度6弱 宮崎県日南市

震度5強 宮崎県宮崎市、串間市、都城市
鹿児島県大崎町

震度5弱 宮崎県国富町、小林市、三股町、高原町、高鍋町、新富町
鹿児島県鹿屋市、垂水市、曾於市、東串良町、肝付町、
鹿児島市、霧島市、姪良市

(4) 津波：津波注意報

愛媛県宇和海沿岸、高知県、大分県豊後水道沿岸、宮崎県
鹿児島県東部、種子島・屋久島地方

2 体制等

・非常体制：本省、気象庁、九州地方整備局、九州運輸局、国総研
国土地理院

・警戒体制：

・注意体制：中部運輸局、近畿運輸局、中国運輸局、四国地方整備局
四国運輸局、沖縄総合開発局

3 人的被害：現時点で被害情報なし

4 国土交通省関連情報

○道路

【高速道路】

通行止め ※8/8 16:44～

・E10 東九州道（宮崎西IC～清武JCT） 8/8 16:44～

・E78 東九州道（清武JCT～清武南IC） 8/8 16:44～

・E10 宮崎道（田野IC～宮崎IC） 8/8 16:44～

・一ツ葉有料道路 全線

【直轄国道】

通行止め

・E78 東九州道(野方IC～曾於弥五郎IC) 8/8 16:50～

・国道220号において落石が発生し、17時40分から通行止め。

○鉄道

【運転見合わせ】

<新幹線>なし

- ・ JR 西日本 山陽新幹線 全線運転再開済
- ・ JR 九州 九州新幹線 全線 脱線なし 全線運転再開済み
- ・ JR 九州 西九州新幹線 全線 脱線なし 全線運転再開済み

<JR 在来線>

- ・ JR 九州 鹿児島線 鹿児島中央～鹿児島間 脱線なし 終日運転見合わせ
- ・ JR 九州 日豊線 延岡～鹿児島間 脱線なし 終日運転見合わせ
- ・ JR 九州 日南線 全線 脱線なし 終日運転見合わせ
- ・ JR 九州 肥薩線 吉松～隼人間 脱線なし 終日運転見合わせ
- ・ JR 九州 宮崎空港線 全線 脱線なし 終日運転見合わせ
- ・ JR 九州 吉都線 全線 脱線なし 終日運転見合わせ
- ・ JR 九州 指宿枕崎線 全線 脱線なし 運転再開済み
- ・ JR 四国 土讃線 吾桑（あそう）～土佐久礼 運転見合わせ（南海トラフ地震臨時情報の発令に伴うもの）
- ・ JR 四国 牟岐線 由岐駅～阿波愛南 運転見合わせ（南海トラフ地震臨時情報の発令に伴うもの）

<民鉄>

- ・ 土佐くろしお鉄道 中村線 全線 運転見合わせ（南海トラフ地震臨時情報の発令に伴うもの）
- ・ 土佐くろしお鉄道 宿毛線 全線 運転見合わせ（南海トラフ地震臨時情報の発令に伴うもの）

○空港

宮崎空港 震度5強

- ・ 管制塔天井の一部落下
- ・ 管制官は管制塔から全員避難、管制事務室にてガンセット（非常用無線機）を用いて一部管制業務継続中
- ・ 電源・無線施設異常確認されておらず
- ・ ターミナルビル1階チェックインカウンター付近で水漏れ
- ・ ターミナルビル3階レストランエリア水漏れ
- ・ 滑走路異常なし
- ・ 誘導路一部亀裂あり

・ その他被害状況確認中

鹿児島空港 震度4

- ・ 滑走路異常なし

・ その他被害状況確認中

熊本空港 震度4

- ・ 被害なし

佐賀空港 震度4

- ・ 被害状況確認中

大分県央飛行場 震度4

- ・ 被害状況確認中

○ 海事

運休 3事業者3航路

国道九四フェリー 佐賀関～三崎

宮崎カーフェリー 宮崎～神戸

津久見市 津久見～保戸島

○ 河川

< 点検対象河川 >

【国管理河川：3水系16河川】

- ・ 肝属川水系 肝属川、串良川、高山川、始良川、鹿屋分水路、下谷川
- ・ 小丸川水系 小丸川、宮田川
- ・ 大淀川水系 大淀川、八重川、本庄川、深年川、綾北川、高崎川、庄内川、沖水川

【県管理河川（精査中）】

- ・ 宮崎県管理河川：10水系58河川
- ・ 鹿児島県管理河川：8水系22河川
(宮崎県管理)

大淀川水系：大淀川、八重川、新別府川、江田川、大谷川、本庄川、深年川、木脇川、三名川、北俣川、永山川、後川、江川、瓜田川、麓川、飯田川、内山川、有水川、高崎川、丸谷川、木之川内川、山田川、浦之名川、東岳川、花の木川、富吉川、樋口川、庄内川、沖水川、横市川、年見川、萩原川、安久川、梅北川

小丸川水系：宮田川、切原川

一ツ瀬川水系：一ツ瀬川、鬼付女川、猿ヶ瀬川、三財川

清武川水系：清武川、熊野川、水無川、岡川

加江田川水系：加江田川

広渡川水系：広渡川、妻手川、益安川、酒谷川、飛ヶ峰川、大根川、

福谷川、内之野川、細田川水系 細田川、南郷川
潟上川水系：潟上川
都井川水系：都井川
本城川水系：本城川

(鹿児島県管理)

肝属川水系：塩入川、荒瀬川、串良川、甫木川、柳谷川、中山川、大始良川、獅々目川
大淀川水系：大淀川、庄内川、溝之口川、横市川
別府川水系：別府川、山田川
網掛川水系：網掛川、宇曾ノ木川
日木山川水系：日木山川
本城川水系：本城川
菱田川水系：菱田川
天降川水系：天降川、手籠川、郡田川

○ダム（点検対象ダム）

国管理ダム：0ダム

機構管理ダム：0ダム

都道府県管理ダム：5ダム

<宮崎県>

・綾南ダム 大淀川水系 本庄川 (震度5弱)

・岩瀬ダム 大淀川水系 岩瀬川 (震度5弱)

・瓜田ダム 大淀川水系 瓜田川 (震度5弱)

・日南ダム 広渡川水系 酒谷川 (震度5弱)

・広渡ダム 広渡川水系 広渡川 (震度5弱)

利水ダム：11ダム

<宮崎県(6ダム)>

・高鍋防災ダム 小丸川水系 宮田川 (震度5弱)

・大淀川第一ダム 大淀川水系 大淀川 (震度5弱)

・高岡ダム 大淀川水系 大淀川 (震度5弱)

・広沢ダム 大淀川水系 浦之名川 (震度5弱)

・天神ダム 大淀川水系 境川 (震度5弱)

・木之川内ダム 大淀川水系 木之川内川 (震度5弱)

<鹿児島県(5ダム)>

・中岳ダム 大淀川水系 大淀川 (震度5強)

・谷川内ダム 大淀川水系 谷川内川 (震度5弱)

・高隈ダム 肝属川水系 串良川 (震度5弱)

・荒瀬ダム 肝属川水系 荒瀬川 (震度5弱)

・竹山ダム 網掛川水系 宇曾ノ木川 (震度5弱)

○砂防

【土砂災害発生状況】

- ・ 確認中（現時点では情報なし）

【点検対象施設数】

- ・ 直轄 61箇所
- ・ 補助 宮崎県 148箇所
鹿児島県 349箇所

○海岸

- ・ 被害情報：現時点で被害情報なし
- ・ 点検対象海岸：以下の通り

<震度5弱以上を観測した地域>

【宮崎県：12海岸】伊比井海岸、小目井海岸、風田海岸、平山海岸、梅ヶ浜海岸、石崎浜海岸、住吉海岸、田吉海岸、赤江海岸、熊野海岸、堀切海岸、北海岸

【鹿児島県：2海岸】鹿屋海岸、垂水海岸

- ・ 津波注意報が発表されている区域で津波による浸水する可能性のある海岸（津波高1mを想定）：以下の通り

【愛媛県宇和海沿岸：5海岸】鹿島海岸、成浦海岸、大日提海岸、筋海岸、西町海岸

○水道

宮崎県日南市	6弱	断水被害情報なし、施設点検中
宮崎県宮崎市	5強	断水被害情報なし、施設点検中
宮崎県都城市	5強	断水被害情報なし、施設点検中
宮崎県串間市	5強	断水被害情報なし、施設点検中
鹿児島県大崎町	5強	断水被害情報なし、施設点検中

5 国土交通省の対応状況

○大臣指示（8日16:50）

1. 被災状況の早期把握に全力を挙げること。
2. 人命救助を最優先に、関係機関と連携して、被災者の捜索・救助及びその支援に全力で当たること。
3. 海上保安庁およびTEC-FORCEは、関係自治体からの要請を待つことなく積極的に対応するとともに、被害が確認された場合には、その総力を挙げて迅速に対応すること。
4. 国民に対して、津波や被害等に関する情報提供を適時的確に行うこ

と。また、津波が発生している場合には嚴重な監視を繼續すること。

○ホットライン：

【宮崎県】

- ・ 16:53 日向市長（詳細調査中、現時点で被害情報なし）
- ・ 16:55 門川町長（詳細調査中、現時点で被害情報なし）
- ・ 17:02 延岡市長（詳細調査中、現時点で被害情報なし）
- ・ 17:19 宮崎県庁 知事（詳細調査中、現時点で被害情報なし）
- ・ 17:30 宮崎市、都城市、串間市、三股町、高原町、国富町、高鍋町、小林市、新富町。（詳細調査中、現時点で被害情報なし）
- ・ 17:45 日南市 （現時点で被害情報なし）

【高知県】

- ・ 安芸市長（断水発生未確認、市内停電している模様、道路寸断等不明、避難所開設準備）

【徳島県】

- ・ 小松島市長（断水発生未確認、市内停電している模様）

○リエゾン：宮崎県庁へ派遣済、日南市へ派遣済

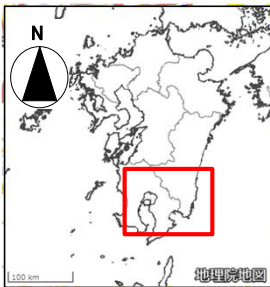
○災害対策用機械：派遣要請に備え、派遣準備中

○防災ヘリ：「はるかぜ号」は17：45離陸

○国土交通本省防災センターにて情報収集対応中

令和6年8月8日●●沖地震(最大震度:6弱)

- 8月8日16時43分頃、最大震度6弱(日南市)の地震が発生。
- 国道220号において落石が発生し、17時40分から通行止め。



【凡例】
 ・通行止め区間: [Red X] [Black line] [Red X]
 ・完了区間: [Grey X] [Grey line] [Grey X]



写真①

R220 落石
・17:40~通行止め

写真① 20号 38k×25 下



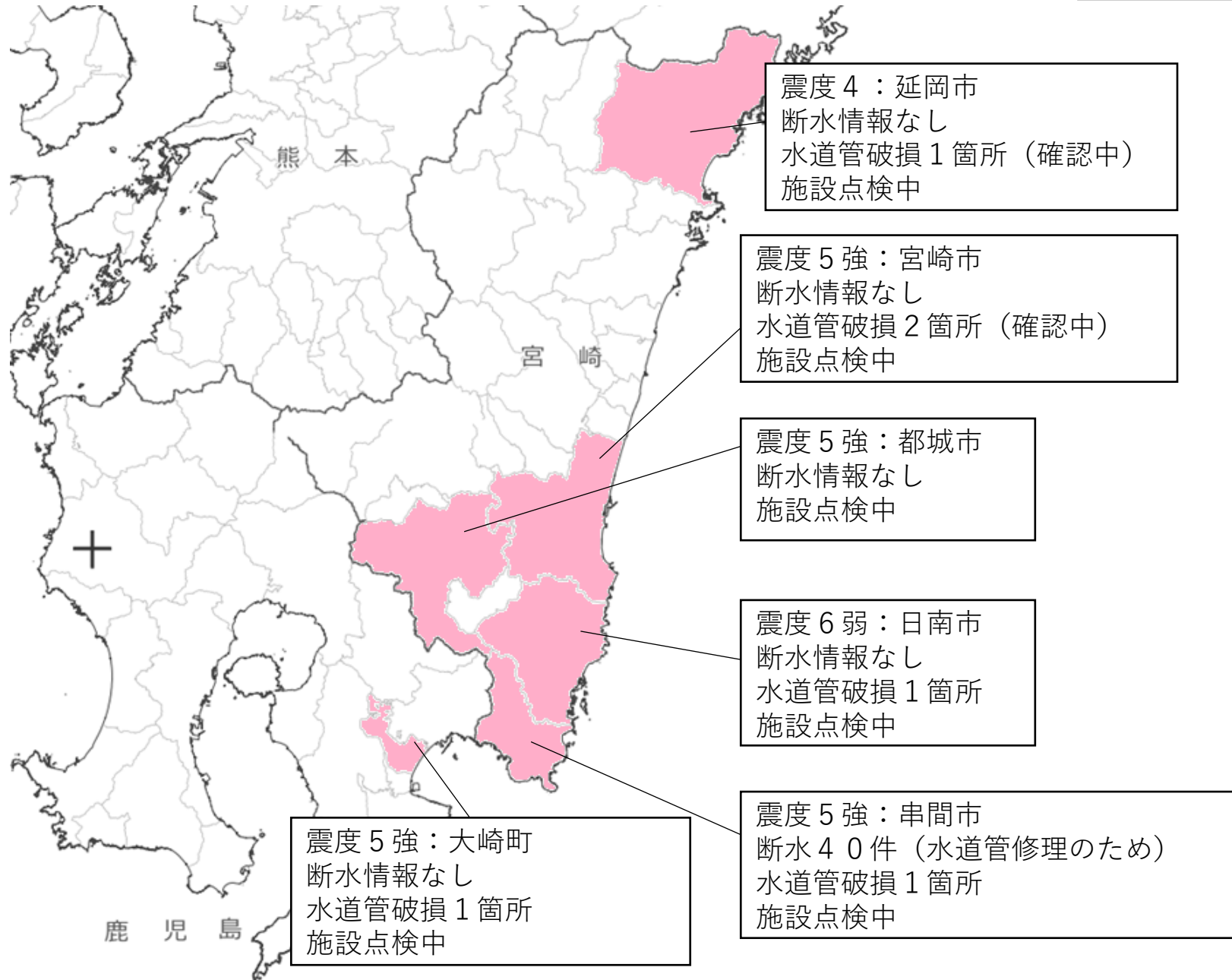
被災による通行止め区間 240808_1830 時点

路線	高速道路	直轄国道	補助国道	都道府県道	備考
宮崎県					
鹿児島県					

注記) ・通行止め箇所は、補助国道以上を示している。
 ・地方道は、孤立箇所の発生要因となっている箇所のみ図示。

【8/8宮崎県沖震度6弱】水道施設の被害状況等について

14



令和6年日向灘を震源とする地震に関する
関係省庁災害対策会議（8月8日20時～）

警備第三課長 発言要旨

- 警察では、警察庁において警備局長を長とする災害警備本部を設置するとともに、宮崎県警察において警察本部長を長とする災害警備本部を設置し、警察ヘリコプター等による情報収集を行っております。
- 本日午後7時までに、今次地震に関連し、宮崎県警察で15件、鹿児島県警察で3件の110番通報を受理しておりますが、その内容は、「建物が傾いている」「落石があった」といったものが中心であり、現時点、要救助事案は把握されておられません。

宮崎県日向灘を震源とする地震について（第3報）

1 厚生労働省における対応

(1) 8/8 16:44 厚生労働省災害情報連絡室設置

2 医療関係

(1) 医療関係全般（8月8日 19時15分時点）

8月8日	宮崎県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	佐賀県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	大分県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	愛媛県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	長崎県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	福岡県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	鹿児島県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	高知県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	熊本県	EMIS 警戒モードに切り替え。
8月8日	沖縄県	EMIS 警戒モードに切り替え。

(2) 医療施設の被害状況（8月8日 19時15分時点）

現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

(3) DMAT 派遣状況（8月8日 19時15分時点）

九州・沖縄ブロックのDMATに対して、自動待機基準が適応され、各地で待機をしている。

(4) DPATの活動状況

宮崎県：DPAT調整本部立ち上げ（8月8日）

(5) 医薬品・医療機器製造販売業、卸売製造販売業関係

現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

3 社会福祉施設等関係

中国、四国地方及び九州地方の都道府県に対し、災害時情報システムを活用した社会福祉施設等の被害状況の把握と情報提供を依頼（8/8）

(1) 高齢者関係施設の被害状況
現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

(2) 障害者関係施設の被害状況
現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

4 保健・衛生関係

(2) 人口呼吸器使用者の安否

各都道府県・指定都市・中核市・児童相談所設置市に対し、特に在宅で人工呼吸器を使用している難病患者に関する対応について注意喚起を行うとともに、被害発生時における報告を要請（8/8）。

患者団体に対し、地区支部を通じて、特に在宅で人工呼吸器を使用している難病患者への被害情報の把握について協力を依頼（8/8）。

現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

(3) 人工透析

各都道府県に対し、透析医療の提供が困難となる事態にも対応できるよう注意喚起を行うとともに、被害状況確認の連絡体制確保を要請した。また、日本透析医会に対し、情報共有について協力を依頼した。（8/8）

現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

(4) 被災者の健康管理

・各都道府県等に対し、地震の影響による保健所等の被害情報の収集や連絡体制の確保を要請。また、被災地で保健師などが行う保健活動に活用するための資料をまとめた事務連絡を送付し、避難所生活を送る被災者の健康管理を行うにあたり、十分な対策を行うように依頼（8/8）。

・なお、被災自治体に保健所の被害状況を確認し、現時点で被害状況の報告なし。引き続き情報収集に努める。

5 薬局、輸血用血液製剤、毒物劇物関係

(1) 薬局、薬剤師

各都道府県等に対し、注意喚起するとともに、薬局の被害状況を把握した場合には報告するよう依頼した。（8/8）

現時点の被害報告なし。引き続き情報収集に努める。

(2) 輸血用血液製剤の供給

現時点で被害報告無し。引き続き情報収集に努める。

(3) 毒物劇物

各都道府県等に対し、注意喚起するとともに、被害状況を把握した場合には報告するよう依頼した。(8/8)

現時点の被害報告なし。引き続き情報収集に努める。

6 地方支分部局関係

(1) 都道府県労働局関係（管内の状況） 【8月8日（木）17:45時点】

○宮崎労働局

・局署所において建物・人的被害は発生していない。

○鹿児島労働局

・局署所において建物・人的被害は発生していない。

○大分労働局

・局署所において建物・人的被害は発生していない。

以上

国土地理院 地殻変動情報（速報）

（REGARD：電子基準点リアルタイム解析システムによる自動解析）

※ 速報（自動生成）のため、今後修正の可能性有り

2024年08月08日16時42分頃 日向灘で発生した地震（M6.9, 震度6弱）

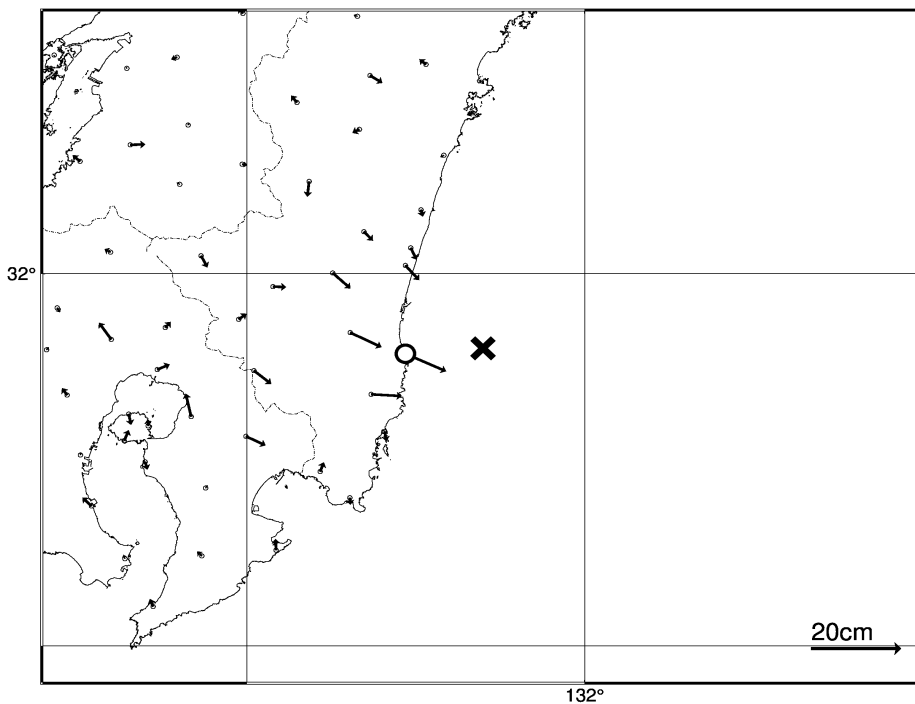
この地震では、宮崎県宮崎市に設置した電子基準点（震源地から西約20km）で最大約9cmの変動が確認されました。（暫定）

※ 震源最寄りの電子基準点から半径50 km以内の最大値

地殻変動が大きい場所や変動の向きが近傍で変化しているところで、建物やインフラ等への被害が発生している可能性があります。

大規模な地震が海底で発生した場合、津波による被害が発生する可能性があります。

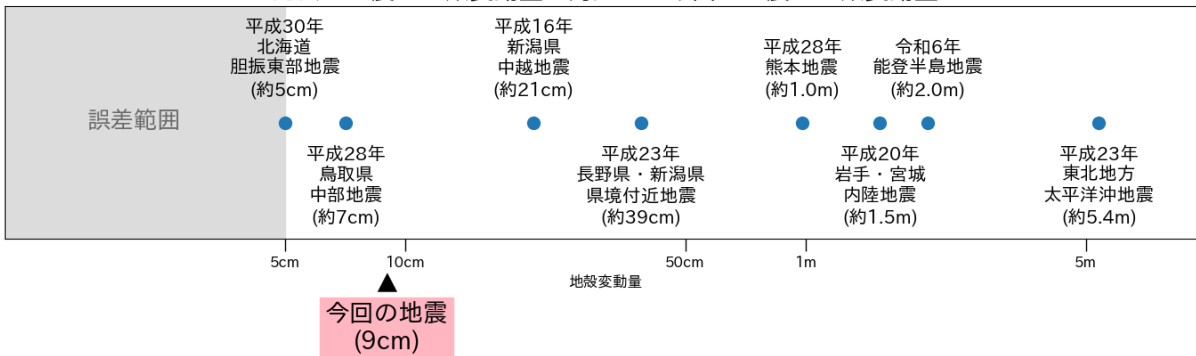
地殻変動の大きさ・向き



X：緊急地震速報の震源（緯度:31.8度, 経度:131.7度, 深さ:30km）

O：最大の変動が観測された電子基準点（「宮崎」）

過去の地震の地殻変動量と対比した今回の地震の地殻変動量



電子基準点・REGARDの概要

電子基準点は、国土地理院が運用する全国約1,300か所のGNSS連続観測局です。GNSS衛星からの測位衛星信号を24時間連続で観測し、離島等の一部地域を除き、毎秒リアルタイムにデータを受信します。REGARDは電子基準点で受信したデータをリアルタイムで解析し、巨大地震に伴う地殻変動を即時推定します。

地殻変動の推定精度は、約5cmです。速報（自動生成）のため誤った変動量が推定されることがあり、そのような結果は今後修正される可能性があります。

本システムは、東北大学との共同研究により開発されたシステムです。本システムには、気象庁の緊急地震速報により得られた情報が利用されています。

【地震ID：20240808164303】 2024-08-08T16:50:46+09:00 自動生成

地殻変動を観測した主な地震とその被害

(2001年1月～2024年3月)

	震央地名・地震名	人的被害			物的被害		地殻変動量		地震規模		津波高 (cm)
		死者 (人)	不明者 (人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	水平 (cm)	上下 (cm)	M	震度	
1	2011年 東北地方太平洋沖地震	19,729	2,559	6,233	121,996	282,941	539.5	-107.1	9.0	7	930
2	2024年 能登半島地震	245		1,300	8,695	18,986	201.8	131.3	7.6	7	80
3	2008年 岩手・宮城内陸地震	17	6	426	30	146	153.3	208.0	7.2	6強	
4	2016年 熊本地震	273		2,809	8,667	34,719	20.0 98.0	4.0 24.0	6.5 7.3	7	
5	2003年 十勝沖地震	1	1	849	116	368	94.7	-29.0	8.0	6弱	255
6	2011年 長野県・新潟県境付近	3		57	73	427	38.8	21.5	6.7	6強	
7	2014年 長野県北部			46	77	137	29.2	-13.0	6.7	6弱	
8	2011年 福島県浜通り	4		10			29.0	5.7	7.0	6弱	
9	2004年 新潟県中越地震	68		4,805	3,175	13,810	20.9	26.7	6.8	7	
10	2007年 能登半島地震	1		356	686	1,740	20.9	6.2	6.9	6強	22
11	2005年 福岡県西方沖	1		1,204	144	353	17.9	-3.7	7.0	6弱	
12	2007年 新潟県中越沖地震	15		2,346	1,331	5,710	17.0	-5.9	6.8	6強	32
13	2003年 宮城県北部			677	1,276	3,809	16.0	9.1	6.4	6強	
14	2023年 石川県能登地方	1		44	18	15	9.2	6.6	6.5	6強	
15	2016年 鳥取県中部			32	18	312	7.1	2.2	6.6	6弱	
16	2004年 東海道沖			36			5.4	1.2	7.4	5弱	101
17	2011年 宮城県沖	4		296			2.8	5.1	7.2	6強	
18	2005年 宮城県沖			100	1		5.1	-4.7	7.2	6弱	12
19	2018年 北海道胆振東部地震	43		782	469	1,660	5.0	-3.4	6.7	7	
20	2004年 留萌支庁南部			8			4.6	3.4	6.1	5強	
21	2019年 山形県沖			43		28	4.5	-2.5	6.7	6強	11
22	2016年 福島県沖			21			4.1	-	7.4	5弱	144
23	2001年 芸予地震	2		288	70	774	2.2	-3.8	6.7	6弱	
24	2011年 三陸沖			2			3.0	-	7.3	5弱	55
25	2004年 釧路沖			52			2.8	2.9	7.1	5強	12
26	2003年 宮城県沖			174	2	21	2.6	2.8	7.1	6弱	
27	2022年 福島県沖	3		247	204	4085	2.8	2.4	7.4	6強	31
28	2011年 静岡県東部			80		18	2.8	-	6.4	6強	
29	2016年 茨城県北部			2		1	2.5	-	6.3	6弱	
30	2021年3月 宮城県沖			11			2.2	-1.5	6.9	5強	
31	2013年 三宅島近海			1			2.1	-	6.2	5強	
32	2018年 島根県西部			9	18	57	1.0	-2.0	6.1	5強	
33	2008年 岩手県沿岸北部	1		211	1		1.9	-	6.8	6弱	
34	2014年 胆振地方中東部			3			1.8	-	5.6	5弱	
35	2021年 福島県沖	1		187	69	729	1.7	-	7.3	6強	
36	2009年 駿河湾	1		319		6	1.3	1.6	6.5	6弱	36
37	2004年 釧路沖			12			1.6	1.1	6.9	5強	
38	2021年5月 宮城県沖			4			1.4	-1.4	6.8	5強	
39	2017年 長野県南部			2			1.4	-	5.6	5強	
40	2011年 長野県中部	1		17		24	1.3	-	5.4	5強	
41	2016年 浦河沖			2			1.3	1.3	6.7	5弱	
42	2013年 淡路島付近			35	8	101	1.2	-	6.3	6弱	
43	2010年 沖繩本島近海			2			1.2	-	7.2	5弱	10
44	2012年 千葉県東方沖	1		1			1.0	-1.1	6.1	5強	
45	2022年 日向灘			13			0.5	-1.1	6.6	5強	
46	2008年 茨城県沖			6			1.0	-	7.0	5弱	
47	2010年 福島県沖			1			0.8	-	6.7	5弱	
48	2013年 十勝地方南部			14			0.6	-	6.5	5強	
49	2018年 大阪府北部	6		462	21	483	0.5	-	6.1	6弱	
50	2002年 宮城県沖			1			0.4	-	6.3	5弱	
51	2005年 茨城県沖			2			0.3	-	6.3	5弱	

※ 2001年1月以降に震度5弱以上の揺れを観測し、人的被害が確認され、かつ地殻変動が観測された地震について、水平又は上下の地殻変動量の大きい順に記載。

※ 地震規模及び津波高は気象庁、人的被害及び物的被害は総務省消防庁による。
日本付近で発生した主な地震被害: <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai1996-new.html#higai1996>
なお、近年発生した地震については、最新の値が反映されていないことがある。

※ 地殻変動量は継続解析で得た確定値。

※ 地殻変動量欄の横棒(-)は、有意な地殻変動が観測されていないことを示す。